

未成年『模擬』衆議院議員総選挙2005 実施報告（速報版）

.....



現地実施団体：未成年模擬選挙実行委員会

呼びかけ：特定非営利活動法人Rights <http://www.rights.or.jp>

模擬選挙ブログ <http://www.mogisenkyo.com>

実施概要

実施時期(投票受付期間)

- ・ 2005年8月31日(水)午前8時30分から
9月11日(日)午後8時まで

対象

- ・ 2005年9月11日現在19歳以下の方

投票方法

- ・ 学校：全国から42校が参加
内訳 = 中学校：11校 高等学校：29校
高専：1校 専門学校：1校
中高一貫校など「中等部・高等部」がある学校は、
中等部、高等部別に計算
今回初めて模擬選挙を実施した学校 = 21校
北海道、岩手、千葉、埼玉、東京、神奈川、長野、三重、
京都、滋賀、大阪、兵庫の12都道府県で実施
総選挙(2003年)実施校 = 7校
参院選(2004年)実施校 = 21校
- ・ 街頭/地域：街頭、地域、Web、FAX、郵送で受付
街頭：全国6ヶ所(渋谷、三鷹、大宮、松戸、柏、岐阜)
地域；合同個人演説会の会場(4ヶ所)、地域児童館(1ヶ所)
Web：北海道～沖縄のほぼすべての都道府県から投票あり



街頭投票@9/1渋谷



街頭投票@9/2大宮

集計概要

投票総数

- ・ 6754票 有効投票数 6099票
- 無効票 = 年齢オーバー、白紙投票など
- 総選挙(2003年) = 約2100票
- 参院選(2004年) = 約4800票

集計方法

比例区の政党で集計
実際の比例区における制度は「ブロック制」をとっているが、ブロック制にすると得票が分散してしまうため「ブロック制」を考慮せず、票数を一律に計算

に伴い、新党日本、国民新党、新党大地といった地域政党ほど、投票の比率が低くなる
大人の選挙における得票総数との比較は、上記を踏まえ、票数を一律に計算したうえでの割合と比較

年齢は、投票用紙に記載があった場合のみを集計

小選挙区における候補者名での投票結果については、別途集計し、選挙区別（同一選挙区内の候補者は50音順）に集計（準備中）

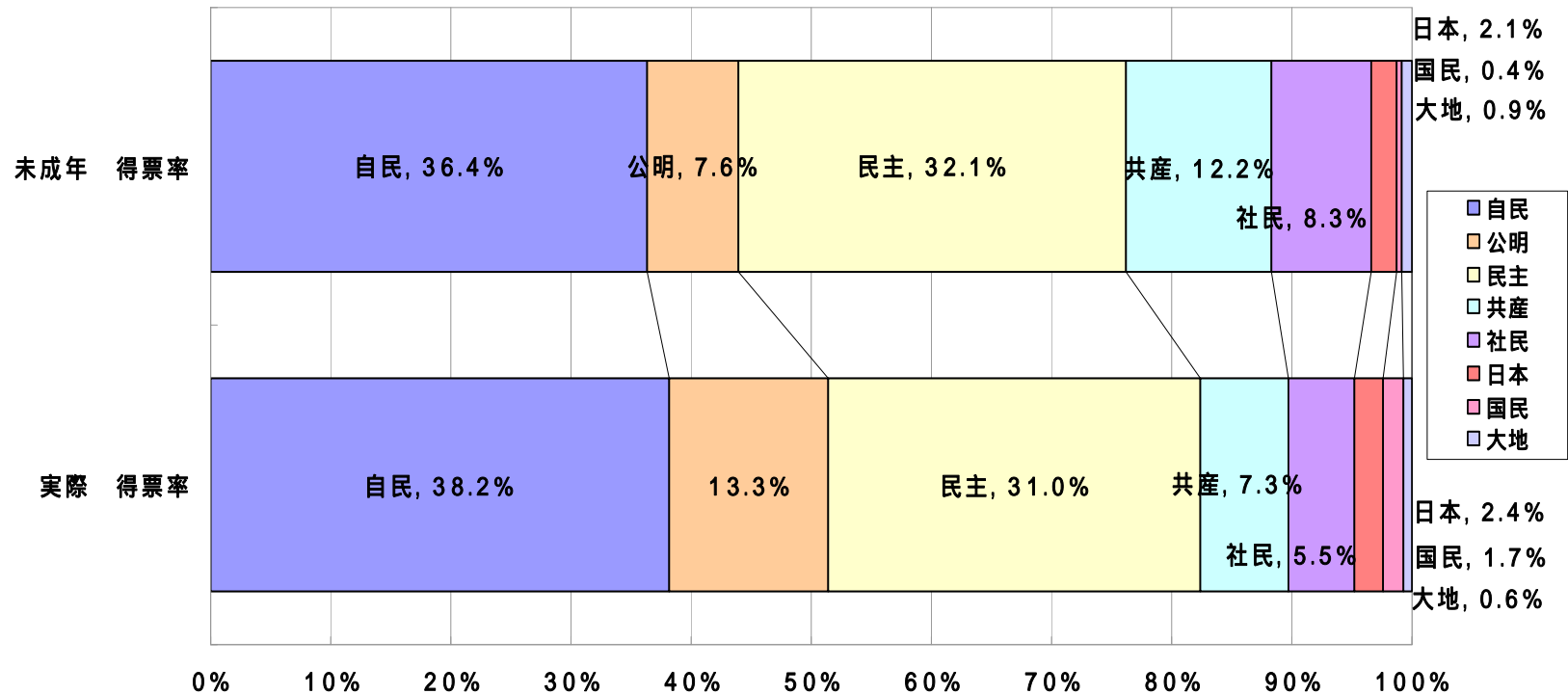
年齢	人数
6歳	2
7歳	3
8歳	4
9歳	8
10歳	10
11歳	18
12歳	42
13歳	45
14歳	154
15歳	158
16歳	126
17歳	139
18歳	156
19歳	124
中学1年	-
中学2年	-
中学3年	387
中学生	862
高校1年	690
高校2年	242
高校3年	1,105
高専5年	41
高校生	1,943
専門学校	126
不明	369
	6,754

投票方法	人数
学校投票	5,396
Web投票・Fax投票	791
街頭投票など	567
総計	6,754

投票結果

未成年「模擬」衆議院議員総選挙2005

未成年”模擬”衆議院議員総選挙2005 投票結果グラフ



	自民党	公明党	民主党	共産党	社民党	新党日本	国民新党	新党大地	有効票合計
未成年 得票数	2,220	464	1,960	741	508	130	24	52	6,099
未成年 得票率	36.40%	7.61%	32.14%	12.15%	8.33%	2.13%	0.39%	0.85%	100%
実際 得票数	25,887,798	8,987,620	21,036,425	4,919,187	3,719,522	1,643,506	1,183,073	433,938	67,811,069
実際 得票率	38.18%	13.25%	31.02%	7.25%	5.49%	2.42%	1.74%	0.64%	100%

模擬選挙実施学校

主な実施学校(順不同) 計42校

北海道

- ・帯広北高校(橋爪先生):国語の授業に実施
- ・東海大付属第4高校(工藤先生)
- ・国立苫小牧工業高等専門学校(山西先生):3年生、5年生の英語授業で実施(全5時間)

岩手県

- ・岩手県立盛岡第一高校(顧問・遠藤先生)
:社会科学研究部が、部活動の一環として実施

東京都

- ・足立区立足立第8中学校(武藤先生):中3の授業で実施
- ・東京都立北園高校(若菜先生):政治経済の授業で実施
- ・東京都立武蔵高校(松田先生):昼休みと放課後に、3年生を中心に実施
- ・自由学園(更科先生):中等部3年と高等部3年で実施
- ・玉川学園高等部(そあい先生):倫理の授業で実施
- ・富士見中学高校(井田先生):高等部2年で実施
- ・華学園栄養専門学校(磯野先生):「社会学」の授業で実施

模擬選挙実施学校

千葉県

- ・芝浦工大柏中学高校(杉浦先生):全学年対象で昼休みと放課後に実施

長野県

- ・長野県松本筑摩高校(有賀先生、手塚先生)
:現代社会の授業で実施/選管から投票箱を借用

静岡県

- ・常葉学園高校(木宮先生):「人間文化コース」を選択している1～3年生が投票

三重県

- ・セントヨゼフ女子学園高校(北川先生)

京都府

- ・立命館宇治高校(杉浦先生)

大阪府

- ・大阪府立東住吉工業・総合高校(原先生)



学校投票@玉川学園高等部

各政党別の投票理由(抜粋)

自民党・民主党

「比例区」における政党別のため「選挙区」に投票した議員(の所属政党)と異なる場合もあります

自由民主党

- ・自民党と公明党以外の党が政権を握っても、今演説などで言っていることが本当に出来るのかと思うから(東京都、11歳、男性)
- ・一番郵政民営化を実行してくれそうだから(広島県、14歳、男性)
- ・政策には、反対だけどこれからの日本は、この党にしか任せられない！！(大阪府、14歳、男性)
- ・やっぱり小泉さんが日本のリーダーにふさわしいと思うから。郵政民営化に賛成だし、郵政改革ごときができなくて、年金や少子化などの大きな改革が出来るのか、と思うから(神奈川県、15歳、女性)
- ・小泉首相の、積極的な政治手法を指示している。郵政民営化や道路公団の民営化など、族議員の妨害によりなかなか進まなかった改革が、ようやく小泉首相によって進んでいこうとしているから。今、民主党に政権を任せても、党内がバラバラなので、どうなるか不安である。また、他の野党も、聞こえのいい言葉ばかりを並べている感じがする。有罪判決が出た候補者、控訴中の候補者など、倫理的に出馬してよいものなのか疑問だ。自民党は、郵政民営化という一つの路線をしっかりと維持しているところを評価したい。(埼玉県、17歳、女性)
- ・郵政民営化などを推し進めて行財政改革を行おうとする小泉首相を支持するから(愛知県、19歳、男性)

民主党

- ・政権交代してほしいから(石川県、13歳、男性)
- ・郵政民営化以外の政策にも目を向けているから。政権交代をしてもらいたいから(神奈川県、15歳、女性)
- ・自民党は前回の政治公約をほとんど果たしていない。優勢民営化には賛成だが専門家の話によると今のままの内容だとアメリカの企業に進出されてしまうらしい。テレビでは毎年アメリカからの要望の詰まった文書が送られて来るらしい。小泉総理になってから国債の発行が増え、国の借金は増えるばかりなどと言われている。サラリーマン増税は完全に反対とは思わないが、歳入を増やしても歳出を減らさないと意味はないと思う。他にも色々あるが、この辺にしておきます。自民党にこのまま政権をおいてると日本は崩壊するかもしてないので、(言いすぎですが)一応民主党に政権交代をして様子を見るって形にして欲しいです(東京都、15歳、女性)
- ・マニフェストを読み議員年金の廃止や高速道路の無料化、国のムダ使いをなくすなど興味を持たせるような公約だったので投票しました(東京都、16歳、男性)
- ・今の政界に必要なことは政権交代で、今の野党第一党は民主党だから。「どこの党が政権をとる」よりも「政権交代を行い今の体制を変える」ことのほうが重要だと思っている(東京都、17歳、男性)
- ・4年半も何の成果も上げることのできなかつた自民党から政権を交代して、新しく改革を進めてくれると思うから(福岡県、18歳、女性)

各政党別の投票理由(抜粋)

公明党・共産党

「比例区」における政党別のため「選挙区」に投票した議員(の所属政党)と異なる場合もあります

公明党

- ・僕たちのことを一番考えてくれるから(愛知県、8歳、男性)
- ・公明党が勝つと日本が平和になると思うから(北海道、11歳、女性)
- ・個人的に郵政民営化は賛成です。ここで政権を野党に譲るとこれからの日本が心配で信用できません。ここで自民党と協力している公明党に一票!(福岡県、14歳、男性)
- ・他の政党と比べ、一番誠実で国民視点だと思ったから(三重県、16歳、男性)
- ・公明党の掲げるマニフェストは僕自身が国民として実感できる。公明党は国民の立場にたって行動している政党だと思ったから。また「しがらみ」のない政党だからこそ改革を断行できると思う為(埼玉県、18歳、男性)
- ・過去のマニフェストの実現力・実行力の高さが決め手です。少子化対策や高齢社会化への対策、ニート対策の他にも、普段必要で当たり前のようなことでも見落としがちなことへの対策など、政策が庶民の目線に立っているものであると思います(佐賀県、19歳、男性)

共産党

- ・名前の印象とちがい、増税や憲法9条の改正に反対して、今回の争点と言われている郵政民営化も、民営化をしない方が良いという事を他の党よりも明確に言っているの、私たち国民にとってより良い政治を行ってくれると思いました(神奈川県、12歳、女性)
- ・二大政党制を止めるに当たり、共産党や社民党は重要な役割がある。小選挙区で日本共産党を支持しなかったのは、過去から考えても当選できる確率が低く一票を投じても確実に当選しない、ある意味無駄な票となる。なので勝算がある比例区として共産党に一票を入れる。二大政党政治はある意味の一方独裁政治となってしまう。そこに第三党があれば独裁的な暴挙に出ても止められる。社民党との違いは戦後どんな党とも連合を組まず一党のみであり続けた点で違う。そういった孤立的なのがストッパーとして有効的である(京都府、15歳、男性)
- ・やましいところがない政党であるから。憲法改悪を阻止し国民の平和な生活を確保できるのは共産党しかないと思う。社民党は政党な理由なく職員を解雇してから信頼できなく感じた。改憲を主張する民主党との選挙協力疑惑もある(北海道、16歳、男性)
- ・各党のマニフェストを見比べてみたところ、具体的な数値などを使って分かりやすく示していたため。自民党のマニフェストは郵政民営化説明不足。民主党のマニフェストは理想が高すぎて現実性がみられませんでした、次の機会に期待したいと思います(埼玉県、17歳、男性)
- ・総合的に見て最も「人間らしい」政策を打ち出していると思えた。ただ、実行力があるかどうかは不安(東京都、18歳、女性)

各政党別の投票理由(抜粋) 社民党・新党日本・国民新党・新党大地

「比例区」における政党別のため「選挙区」に投票した議員(の所属政党)と異なる場合もあります

社民党

- ・憲法9条を守ることは2度と戦争をおこさないために絶対に大切だと思うので、共感しました(千葉県、16歳、女性)
- ・私が社民党を選んだ理由は、社民党が憲法9条を守ろうとしてるからだ。憲法9条はなくてはならない憲法だと思う。頑張って守り抜いてほしい(北海道、17歳、女性)
- ・女性の子育て支援に力を入れてくれそう。将来のためにも応援したい(大阪府、18歳、男性)
- ・経済の自由化よりも格差是正に主眼があるから。憲法改正・外交・安全保障の点でも一般の生活者の視点が大事にされているから(千葉県、19歳、男性)

新党日本

- ・今回、政権をとるのは難しいと思うが、今まで日本に無かった仕組みで党を立ち上げ、時間は掛かるが、今の日本を変えてくれそうだから(福島県、15歳、男性)
- ・党首が中央の考えに染まっておらず、地方の考えも取り入れてくれるのではないかと思うから(長野県、18歳、男性)
- ・新体制による既存の体制への抵抗勢力として(愛知県、19歳、女性)

国民新党

- ・記載なし

新党大地

- ・北海道に新しい風を吹き込んでくれそうだから(北海道、15歳、男性)
- ・税金の無駄遣いをなくしてほしい。郵政民営化よりも先にすべきことがあると思う(北海道、17歳、女性)
- ・地域新党として、北海道の代弁者として、まず鈴木宗男氏を国政の場に送り出したいのです。もちろん鈴木氏のみを支援しているわけではありませんが、北海道のことを考え、北海道のための政治を行う、確かに古い形の政治と言われるかもしれませんが、実際に地域に根ざさない政治になれば、地方の現実を見据えない、永田町・霞ヶ関の紙面による政治となってしまう、ますます地方切り捨てや官僚政治にむかっていくだけだと思います。民主党には政権を取ってほしい(民主党が地域に根ざしていない、と言うわけではありません。)、ただし新党大地として北海道の現実を国会で主張してほしいと思いました(北海道、17歳、男性)

投票しての感想(抜粋)

- ・子供の投票ができたから、うれしいです(愛知県、9歳、女性)
- ・誰にするか、どの党にするか、考えるのが大変でした(東京都、10歳、男性)
- ・未成年の人に選挙をすることで政治に関心が持てると思うからいいと思う(東京都、11歳、男性)
- ・反対ばかりしている党は本当に市民のことを考えているとは、思えない(愛知県、12歳、女性)
- ・法律では、20歳以上しか投票出来ないし、20歳以下は意見も聞いてもらえないから、こういう投票というのは、とてもいいと思う(北海道、13歳、女性)
- ・選挙に行かない大人が増えているのは、悲しい現実だと思う。自分達の未来を決められる参政権なのに、使わないなんてもったいないと思う。もっと自分の権利に、正しく対応するべきだと思う(東京都、14歳、男性)
- ・模擬選挙は投票権がない僕らでも参加できる唯一の選挙であってとてもおもしろいです(福岡県、14歳、男性)
- ・昨日のテレビ番組で模擬選挙の存在を知りました。中学校の公民の授業は、このような考えさせる授業だったのに高校の授業はただ単に政治に関する用語を覚えたりするだけで飽き飽きしていました。今回この選挙に参加できたことを嬉しく思います。これからも是非続けていって下さい(神奈川県、15歳、女性)
- ・選挙なんて先の話と関心が無かった私ですが、テレビで模擬選挙の事を知って何だか興味がわきました。日本の政治を誰に任せるか、決めるのは国民なんですよ。慎重に選ぶ時がいずれ来るのでこういった活動はとても良いと思います(北海道、15歳、女性)
- ・今回投票してみて、改めて自分の1票を投じることは大切なことだと思いました(神奈川県、15歳、男性)
- ・実際にマニフェストなどを見るとどの政党が良いかでとても迷った。選挙権を持ったときにこの経験を生かしたい(愛知県、16歳、男性)
- ・日本の国民なら日本の政治に参加する。これは民主主義国家の基本です。自分の希望としては投票が出来る年齢を20から国際標準の18に引き下げ、更に学校等でこの様な取り組みを行えば若者の政治への関心も上がると思いますし、良い取り組みだと思います。今後とも活動を続けて欲しいです(宮城県、17歳、男性)
- ・日本の将来を大きく左右するこの選挙に投票できないことは、とても残念です。しかし、この模擬選挙によって自分の意思を社会に伝えることができました。一人でも多くの有権者が投票に行き、国民の意思によって政治が行われる日本になればいいなと思います(東京都、18歳、女性)
- ・20代の政治に対する関心の低さは、日本の政治・政治家の水準を下げるものとなると、聞いたことがあるが、これは今の若い世代の将来をととても不安にさせるものと感じます。「俺らには関係ない」といった政治への無関心は、自分たちの将来に対する責任放棄であり、次の世代への責任放棄だと思います。つまり、親が子供の事、また、子供の将来について無関心であるということと一緒です。そんな親は親失格であるように、政治に興味を持たない人は、(大分極端な話ですが、)国や地方の住民失格だと思います。有権者になって選挙で投票するときに備えて、もっと学校などの場でも政治に対する学習や模擬選挙のようなものを作っていいのではないかと思います(佐賀県、19歳、男性)

実施された学校関係者からのコメント(抜粋/順不同)

- ・今回の特徴としては、投票率が悪く初めて本物に負けました。体育祭の翌日だったためみんな疲れきっていたのかなあと思いましたが、聞き込んでみると、一番政治について真剣に考えている層・いつもなら率先して選挙に来た層が悩み抜いた？未棄権したという傾向がありました(都立武蔵高校・松田先生)
- ・生徒には政策、公約をよく考慮して投票するように言いました。全員とは言いませんが、ある程度はしっかりと投票してくれたと思います。前回よりも参加校が増え、この試みもだいぶ知名度が高まってきたと思います。また新聞などでも模擬選挙についてまだまだ理解が進んでおらず、実施できなかった学校があるとも聞いております。いろいろと課題もありますが、次回は参加校ももっと増えて欲しいと思いますし、このような試みがすべての学校で行われる日がくると考えています(東海大付属第4高校・工藤先生)
- ・高校3年女子は教科情報の時間で行った。パソコン教室で概要説明をした後各々がネットや配布したマニフェストで2時間の調べ学習を行った。教室でのポスター掲示(雰囲気作り)と近い将来自分自身も有権者になるという事を前面に押し出して授業を進めた。ワークシートを用いて記入させる事で情報収集能力の向上も計れた。一番大事な生徒の選挙に対する意識の変容もしっかりと出来たように感じている。若年層(有権者)の選挙に対する無関心な態度が問題になっているがこのような若い時期から教育として考える事は非常に重要で大切であると実感できた。(自由学園・更科先生)
- ・「選挙権が早くほしい。投票に参画したい」旨の意見が多数出た。過去にも「模擬選挙」を除く実践は「参議院議員選挙」(2001)で行ったが、やはりこういった企画は大変タイムリーでよいと思う。そして、「社会科」の授業だけではなく、NIE(Newspaper in education)を通じての「英語」授業でも切り口は十二分にあるとも思う。様々な角度より、他教科に渡って切り込んでいっても興味深いと感じた。(苫小牧高専・山西先生)
- ・昨年に引き続き行ったが、今回事前に市選管を訪ね、本物の選挙箱をお借りしたのがよかった。またライツから送られた各政党のポスター、マニフェストも授業で紹介できて、ありがたかった(長野県松本筑摩高校・有賀先生)
- ・事前の準備が大変だったが、ライツのホームページにあるツールや送付してもらったポスター等は非常に有用だった。生徒の反応は昨年とは比べものにならないほどよく、アンケートに書かれた感想からも多くの生徒たちに有権者意識を育てることができたようだ。但し、候補者・政党を選んだ理由としては、知名度や年齢(より若い候補者)、「なんとなく」といったものが多く、政策ではなかなか判断できない投票者の現実のようなものを実感した。今後の課題としては、今回は時期的に一回の授業でしか取り上げられず、小選挙区の候補者については政党名だけで判断させることになったが、今後は授業を二回にわけて、生徒各自の属する選挙区の候補者に関する情報を収集する作業を入れる必要があると感じた。(華学園栄養専門学校・磯野先生)

今回の特徴

1：学校での模擬選挙実施が倍増

- ・全国42校から模擬選挙の実施報告が届く(2005年9月13日(火)午後6時現在)
- ・総選挙の実施が決まって以来、多くの学校から模擬選挙の実施に関する問合せが寄せられた

2：街頭投票および合同個人演説会の複数会場での実施

- ・街頭投票は東京、千葉、埼玉、岐阜の4都県で実施
- ・千葉県内で開催された合同個人演説会のうち4箇所でも模擬選挙を実施

3：選挙管理委員会との連携

- ・これまでの模擬選挙に引き続き、各地の選挙管理委員会から、実際の選挙で使う投票箱の借用、選挙公報の生徒数分の提供、選挙啓発グッズ(テレビガイド、啓発ポスターなど)の提供を受けた

4：公開討論会、合同個人演説会との連携

- ・東京6区、東京22区で行なわれた公開討論会および千葉県内で開催された合同・個人演説会において、未成年者用に「未成年者席」を設けていただくと同時に、模擬選挙のチラシを配布させていただいた

5：主要政党のマニフェストおよびポスターの入手

- ・総選挙に向けて作成された主要政党のマニフェストおよびポスター(比例区用)を入手し、模擬選挙を実施する連絡のあった学校に対して、配布した



街頭投票@9/6松戸



街頭投票@9/9三鷹

課題、総括

課題

- 1：模擬選挙に取り組む学校が増えた反面、実施を検討していた複数の学校において『中学生、高校生が実際に投票を行なうのは“政治的すぎる”』との管理職などからの反対で、模擬選挙の実施を断念せざるを得なかった。模擬選挙に対する理解の浸透がすすむ中、こうした方々への対応が重要性を増している
- 2：模擬選挙の広がりがすすむにつれ、呼びかけ団体であるRightsの負担(人的、金銭的、時間的など)が増大しており、十分に対応をとることができていない
- 3：模擬選挙を盛り上げるための資料やグッズをきちんと確保していくために、各政党や選挙管理委員会との連携、協働のあり方の検討が求められている

総括

- 1：投票内容に関して
 - ・実際の選挙結果と比較すると「自民党圧勝」とまではいかないが、「自民党勝利」との結果が出ており、未来の有権者は、実際の投票動向を占うことができることが分かった
 - ・その一方、学校での模擬選挙の取り組みにおいては、各政党の政策の比較、マニフェストの読み比べなどを事前に行っているところが多く、未来の有権者は、各政党の政策を踏まえたうえで投票している
 - ・普段は選挙や政治に関心のない未来の有権者も、模擬選挙を行うことを通じて、実際の選挙結果に興味・関心を抱くようになっていくことが、感想などから読み取れる
- 2：実施体制について
 - ・模擬選挙ブログを通じて、模擬選挙実践ハンドブックやワークシートなどの提供がスムーズに行えるようになった
 - ・マスコミ各社から模擬選挙の取材があり、記事やテレビを見て投票しに来る高校生もいて、今後もマスコミに対してのPRには力を注いでいきたい
 - ・「課題」にも書いたように、模擬選挙の呼びかけ団体であるRightsの負担が増えており今後の体制については検討の余地がある

プレスリリース

新聞

- ・北海道新聞（2005年8月20日） 未成年者も衆院選に参加しよう
ファクスなど使いNPOが模擬選挙
- ・東京新聞（2005年8月23日） 模擬選挙の若者、社会人として忙しくても 流されず一票
- ・日本経済新聞（2005年8月26日 夕刊） NPOの未成年者向け衆院選模擬投票へ参加増える
- ・読売新聞（2005年9月3日 都内版） 10代の模擬衆院選 「投票率」は上々
- ・読売新聞（2005年9月3日 三重県版） 模擬選挙に備え勉強 セントヨゼフ女子学園
- ・日本経済新聞（2005年9月3日） 改革は進むか 05衆院選5
- ・朝日新聞（2005年9月3日 夕刊） 窓～論説委員室から
- ・毎日新聞（2005年9月5日 夕刊） 特集WORLD：'05衆院選・劇場の外で
渋谷 若者の街に見た「切実」
- ・北海道新聞（2005年9月7日） 05衆院選道内の動き
道内高校生らも模擬選挙に投票 14日「開票」結果
- ・静岡新聞（2005年9月8日） 高校生が教室で“1票”
焦点は年金や子育て支援 常葉高 政策調べ模擬投票
- ・読売新聞（2005年9月9日 岩手版） 高校生が 模擬選挙 盛岡一高
- ・北海道新聞（2005年9月10日） 音更高、模擬投票を中止 「高校生は早い」父母の苦情心配
- ・朝日新聞（2005年9月11日） 中・高 広がる模擬投票 03年衆議院選7校、今回32校
子どもの社会参加促す 一方で政治教育タブー視も
- ・毎日新聞（2005年9月11日） 中高生の模擬投票が急増 ウェブで政治論議

テレビ

- ・フジテレビ系列「ニュースJAPAN」（2005年9月9日） 未来の有権者たちは・・・
- ・TBSテレビ「イブニング・ファイブ」（2005年9月12日）

FM

- ・Tokyo FM「FLOWERS～TOKYO UPDATE」（2005年8月31日）
- ・Nack 5「NACK AFTER 5」（2005年9月1日）

実施体制

実施団体 未成年「模擬」総選挙2005実行委員会

主催・よびかけ 特定非営利活動法人Rights(ライツ)

後援 インターネット新聞『JanJan』

賛同・協力(順不同/敬称略)

模擬選挙実施校

公開討論会NGOリンカーン・フォーラム

社団法人東京青年会議所・世田谷区委員会

若者による政策メディア「seiron」

特定非営利活動法人こばてい - 子ども参画イニシアティブ

子どもの権利条約ネットワーク

政策シンクタンク「構想日本」

東京22区で公開討論会を開く市民の会

千葉県で公開討論会を推進する会

Manifesta

特定非営利活動法人21世紀教育研究所

&投票してくださった未来の有権者の皆さん

連絡先 「未成年模擬選挙実行委員会」事務局

(特定非営利活動法人Rights内)

〒106-0032 東京都港区六本木4-7-14みなとNPOハウス4F

TEL&FAX : 03-3796-0822 担当者直通 : 090-1991-7458(林)

Rightsウェブサイト <http://www.rights.or.jp/>

模擬選挙ブログ <http://www.mogisenkyo.com/>

E-mail : info@rights.or.jp

特定非営利活動法人Rightsは、「選挙権年齢の引き下げ」「政治教育の充実」を目的に、2000年5月に10代・20代の学生・社会人を中心に結成されたNPO法人(2002年2月内閣府認証)です
特定非営利活動法人Rightsは、特定の政党・宗教団体の影響下にはありません